

# 福岡大学病院で実施されている人を対象とする医学系研究に関する情報公開

整理番号

15-5-14

研究課題名

肺腺癌の脳転移におけるEGFR mutation、ALK rearrangmentの発現と予後との関連

研究責任者

病理学

教授

鍋島 一樹

試料・情報の利用目的・方法

転移性脳腫瘍は脳腫瘍の中で最も頻度の高い腫瘍であり、その中でも約50%が肺癌からの転移であり、組織学的には肺腺癌が最も多いです。肺癌において脳転移は予後不良因子であり、治療の1つである化学療法に関しては基本的に原発巣の組織により決定します。近年、非小細胞肺癌におけるEGFR(epidermal growth factor receptor)遺伝子変異や微小管会合蛋白; EML4(echinoderm microtubule-associated protein-like4)-ALK(anaplastic lymphoma kinase)融合遺伝子異常が同定され、その分子標的治療薬の高い奏効率が注目されています。アジア人では肺腺癌の多くにEGFR遺伝子変異を認め、約5%にEML4-ALK融合遺伝子異常も認められており、これら遺伝子変異陽性の肺癌は陰性の肺癌より予後良好であることが報告されています。肺腺癌の脳転移における、EGFR mutation、ALK rearrangmentの発現と予後との関連性を解析し、原発肺腺癌との遺伝子変異の相違を評価することで、今後の肺癌脳転移症例の治療に役立てることを目的とします。

研究期間： 開始日

病院長許可日

～

2018/3/31

(予定終了日)

試料・情報の項目

原発性肺癌および脳転移巣の外科切除標本病理組織、検査データ、診療録

試料・情報の管理責任者

研究責任者：鍋島 一樹

利用する者の範囲

研究責任者及び研究責任者が指名した研究者(福岡大学内)

他の研究機関への試料・情報の提供先：

※ 研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止しますので、下記へご連絡ください。

連絡先： 鍋島 一樹

電話番号：福岡大学病院(代表)092-801-1011

福岡大学病院 病院長